

金融市場NOW

日本の雇用情勢は今後更なる悪化の可能性

有効求人倍率は2014年以来の低水準

- ▶ 有効求人倍率は7ヵ月連続低下し、およそ6年ぶりの低水準。新型コロナウイルス感染拡大を背景に企業の採用意欲は低下。
- ▶ 失業率の悪化は小幅にとどまるも先行きは不透明。今後、新型コロナウイルスの影響が長期化した場合、失業率の更なる上昇につながる可能性も。

有効求人倍率はおおよそ6年ぶりの低水準

厚生労働省が9月1日に公表した2020年7月の有効求人倍率* (季節調整値)は前月比0.03ポイント低下の1.08倍となり、7ヵ月連続の低下でおおよそ6年ぶりの低水準となりました(図表1)。企業からの有効求人数(前月比プラス2.5%)、勤労意欲のある有効求職者数(前月比プラス6.0%)ともに増加しましたが、有効求職者数の増加幅が上回ったことから有効求人倍率の低下につながりました。

新規求人数が再び減少に転じる

景気の先行指標として注目される新規求人数(季節調整値)は、7月は前月比マイナス4.9%となりました(図表2)。経済活動正常化の動きにより新規求人数は5月から2ヵ月連続で改善してきましたが、足元では減少に転じています。新型コロナウイルス新規感染者数が再び増加していることを背景に今後の雇用情勢が厳しくなることも予想されます。

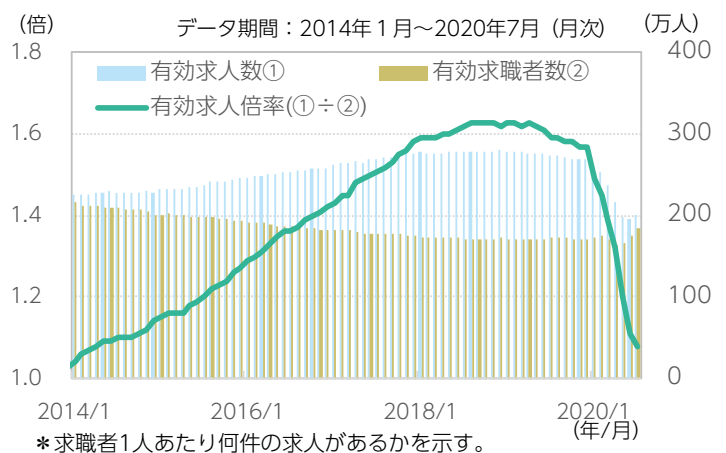
今後、失業率が一段と悪化する可能性も

総務省が9月1日に公表した7月の失業率は前月比0.1ポイント上昇の2.9%と小幅に悪化しました(図表3)。

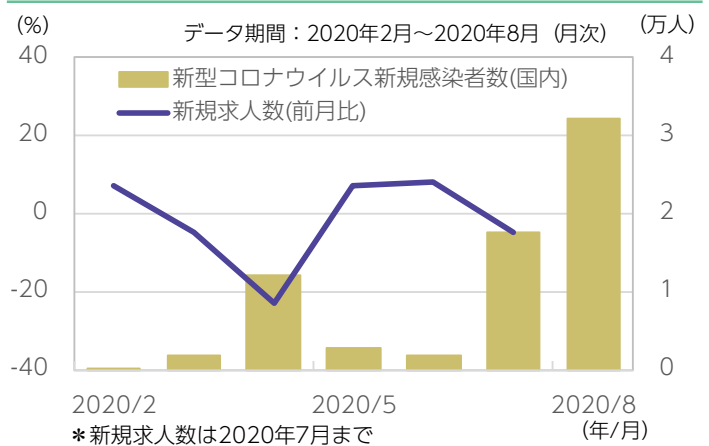
新型コロナウイルスの感染拡大によって採用の抑制はみられるものの、労働者の解雇は一部に留まっているようです。しかしながら、新型コロナウイルスの影響が長期化し、企業業績の低迷が続けば企業が雇用を維持できず、非正規労働者等を雇い止めするなど、失業率の更なる悪化が見込まれます。

2008年のリーマンショック時には失業率が1.7ポイント悪化しました。新型コロナウイルスの影響から経済活動の回復が遅れる場合には、失業率が今後さらに上昇することも考えられます。

図表1：有効求人倍率*はおおよそ6年ぶりの低水準



図表2：新規求人数が再び減少



図表3：失業率の推移



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>